



はあもい

●社会医療法人創和会会報誌はあもい / 発行 理事長 重井文博
令和7年5月1日発行



幸町記念病院 院長 田中 信一郎

2025年度の事業方針 ～新たな環境での出発に向けて～

創和会との合併を目指して

厳しい医療環境が吹き荒れている中、三祥会 幸町記念病院は創和会と本年10月に合併することになりました。合併をチャンスと捉えて、グループ内での人事交流や医療連携を強化して、現在の医療レベルを維持することはもとより、より良い透析医療を提供することを目指して参ります。

1) 当院に求められる役割

腎不全センターとして専門外来診療を充実していくことと考えています。そして、創和会のメンバーとして参入することで、重井医学研究所附属病院と電子カルテの共有や施設間の患者搬送を円滑に行うことにより医療連携の強化を図ります。

2) 新たな医師の参加

この度、令和6年11月から循環器領域を専門とする松本 三明 医師（元 津山中央病院 心臓血管外科）を、そして令和7年3月から腎疾患領域を専門とする喜多村 真治 医師（元 岡山県立大学 保健福祉学部看護学科 教授）のお二人をお迎えすることができました。維持透析患者さんの透析管理を充実するとともに、心血管合併症への適切な対応ができる環境が整いました。

3) 当院ならではの取組み

新たなスタートを切るこの機会に、患者さんや地域の皆さんからこれまで当院に期待されてきたことを振り返り、見直すべきものは改善し、より良くすべきものは発展させていくことに取り組みます。例えば、外来透析患者さんにご提供してい

る給食は皆さんから美味しいとの評価をいただいています。そして10年前より、弁当を希望される方には、持ち帰り透析弁当「ニコニコ長寿食 まめっち弁当」を提供しています。透析患者さんの栄養管理の一環として院内のみで展開してきましたが、合併後はグループ内の施設にも拡げていくことを目論んでいます。

腎移植外来の本格的稼働に向けて

近年、腎疾患の治療選択では患者さんの意思を尊重して決定する時代になって参りました。腎代替療法では血液透析・腹膜透析・ハイブリッド透析・腎移植・保存的腎臓療法などが選択肢に挙げられます。当院はこれまで維持血液透析療法を主体に担って参りましたが、今後は領域を拡げることが予定しています。この度、藤原 拓造 医師（元 国立病院機構岡山医療センター）を招聘して4月から腎移植相談室を本格的に稼働する環境が整いました。腎移植外来では、移植手術後のフォロー、移植前の相談、そしてセカンドオピニオンの要望に応じます。

新年度の私たちの意識「凡事徹底」

新たな環境の中で創造することを意識して前進するためには、現状を見定め、平常の業務を確実に展開することが最優先と考えています。

“当たり前のことが当たり前に行われている病院”
当たり前のこととは何か を考える！

2025 年度の事業方針

～しげい病院の進むべき方向性について～

しげい病院 院長 有元 克彦



医療を取り巻く厳しい環境

新型コロナウイルス感染症は5類に移行し世間一般はコロナ以前の状態に戻ってきました。しかし医療について言えば、国民の受診・受療行動の変化により、多くの医療機関で入院・外来ともに患者数が減少しています。コロナを受け入れていた医療機関では2024年度から病床確保料が全廃されたこともあって、更に経営が苦しくなっています。加えて、電気、ガソリンなどのエネルギーコスト、食料価格の上昇など、コスト増を価格転嫁できない医療機関にとって大きな足かせとなっています。しげい病院にとっては診療報酬改定の影響が大で、特に回リハ病棟と透析で大きな痛手を被りました。結果、2024年度の収支は非常に厳しい状況となりました。

新たな地域医療構想としげい病院の進むべき方向性について

しげい病院の診療の柱といえば透析と回復期リハビリテーションです。この強みを活かして、これからも透析と回復期のリハビリテーションに注力していくことに変わりはありません。しかしながら透析医学会の統計調査で2年連続して血液透析患者数の減少が報告されており、リハビリが必要な脳血管疾患患者数も今後減少すると予想されています。透析とリハビリのみに頼っているのは先細りになりかねません。

おりしも昨年末に「新たな地域医療構想に関するとりまとめの概要」が発表されました。総人口が減少する一方で85歳以上の人口が増加する2040年の医療需要を踏まえて「治す医療」と「治し支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化し、病床機能の分化連携に加えて医療機関機能の明確化がうたわれています。病床機能では回復期が包括期に名称変更され「高齢者救急を受け入れて、早期からリハビリを提供し、在宅に復帰させる機能」とされました。この機能は医療機関機能としては「高齢者救急・地域急性期機能」と位置づけられています。これら「包括期・高齢者救急・地域急性期機能」が透析・回リハに次ぐ柱として、しげい病院が担っていこうとする「治し支える医療」です。

その役割を果たすために、皆さんの協力を得て、

昨年11月から本館3階を「地域包括医療病棟」としてスタートすることができました。看護必要度、在宅復帰率、救急受け入れ実績などクリアする条件が厳しいなかで、安定的に運営していくことが大きな課題です。加えて新入院を受けやすい病棟編制に向けての長期的な取り組みも待たなれずです。

病院目標 基本方針が変わりました

2019年度から6年間変わらずに続いた基本方針を一部変更しました。

- ①生命予後のみならずQOLの向上を重視したチーム医療を提供する
- ②人の和を大切にし、職員の自己実現とやりがいを育む
- ③新しい課題の発見につとめ常に変化を求めていく

に変更しました。

①は創和会の理念「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」をしげい病院の目指す医療に当てはめました。③は先代の理事長の口癖「マンネリはいけません」から引き継ぎました。そして今年から変更になった②は「人の和を創ることが最も大切」との「創和会」の由来からとらせていただきました。

人の和と言うと、なんとなく仲良くしておけば良いのかなというイメージですが、それは違います。聖徳太子の十七条憲法の第一条に「和を以て貴しとなす」とありますが、人の和を創るのが難しいからこそ冒頭に書かれているとも言えるでしょう。人の和とは、喧嘩せずにとりあえず仲良くやると言うようなことではないと私は考えます。人はそれぞれひとりひとり多種多様な立場で多種多様な考えを持っているのが当たり前です。お互いの立場や考えを尊重し、相手をおもいやり、話し合っ、合意をしたら、職員一同同じ方向を目指して進んで行く。それが人の和を創ることでしょう。

困難な道であっても職員の大きな和を創って前進すれば、必ず大きな成果を得られると確信しています。

重井 医学研究所附属病院

2025 年度の事業方針

～「変革」と「連携」の進化で、
幸せを、すべての人と共に～

重井医学研究所附属病院 院長 真鍋 康二



病院医療の環境悪化を経験した 2024 年度

2024 年度は新型コロナのパンデミックが終わり補助金がなくなりました。診療報酬改定で私たちの病院の急性期病棟は「急性期一般入院料1」の施設基準を満たさなくなって診療報酬が減額になりました。これに対応して12月「高齢者を治し、支える医療」を実践する「地域包括医療病棟」への転換を成し遂げました。このような職員の皆さんの真摯で素晴らしい活躍にもかかわらず、光熱費の高騰など病院を取り巻く外部環境の悪化により、病院の財務状況は悪化しました。

病院理念を追求して、基本方針を実践する

逆境の中、2025 年度に私たちのなすべきことは病院理念を追求して基本方針を実践することです（図）。「持続可能な開発目標（SDGs）」の17目標のうち私たちに関りが深い「3 すべての人に健康と福祉を」は英語では Good Health and Well-Being で、「健康と幸せを」とも翻訳でき、私たちの病院理念とほぼ同じです。この病院理念の追求のために、基本方針の実践を今まで以上のレベルの高さで展開していきます。

医療を通じた「連携」で職員と地域の幸せを

良質な医療を通じて、地域の信頼に応えるために、高度急性期病院、診療所、介護施設、訪問看護師・ケアマネージャーなどと共に質を高め合う「地域連携」を拡大します。病院全職員の「連携」意識をワンランク上げて、「高齢者救急」や「連携搬送」など、地域連携の円滑さと迅速さを「変革」と呼べる程度まで向上させましょう。

高齢化する透析患者さんにより良い治療を提供するため、法人内の「しげい病院」「幸町記念病院」「しげい腎クリニック早島」と共に、広域な医療機関・介護機関とさらに連携して、地域社会への持続的な貢献を達成しましょう。

職員の「幸せ」の向上を目指して、今まで以上に、敬意をもって協力し合う職場を達成すべく、職員間の「連携」レベルの一段と高い職場への「変革」に協力をお願いします。患者さんと私たちが目指している「幸せ」は、何か問題があれば途絶えてしまう幸せ（Happiness）ではなく、「辛いことがなかったと言えば嘘になるけど、幸せです」（Well-Being）と考えています。

生きることの尊さと健康であることの幸せを、
すべての人と共に

生命の尊厳と人権を尊重した良質な医療を通じて、**地域の信頼**に応えます
知識・技術を向上して敬意を持って協力し合い、**チーム医療**を実践します
地域社会への持続的な貢献を目指し、**健全経営**に取り組みます

変革と連携

センター長就任の挨拶

■重井医学研究所附属病院 副血液浄化療法センター長 荒木 俊江

皆さんこんにちは。重井医学研究所附属病院 内科の荒木俊江です。定年後早4年以上過ぎておりますが、日々若い頃と同じ状況で仕事をしております。

そんな中、理事長先生、院長先生などのご推薦をいただき、副血液浄化療法センター長という重責を拝命し、恐縮しているところです。

思い起こせば、昭和62年2月16日に当院に赴任して以後、透析医療を含めた当院の診療中心である腎臓病、元々興味があった糖尿病をふくめ、消化器、循環器等の診療にも当たってきました。今後はそれに加え、肥満症の治療にも当たっていきたいところです。

生来邁進してしまう性格であり周囲の方にはご

迷惑、ご心配をおかけすることがあると思いますので、気がついたときには金槌でたたいてください。心理的安全性という言葉がよく聞かれる昨今です。私自身も、公私ともにそれが保てるようにしていきたいです。みんなが仲良くできる病院、血液浄化療法センターを目指しましょう。



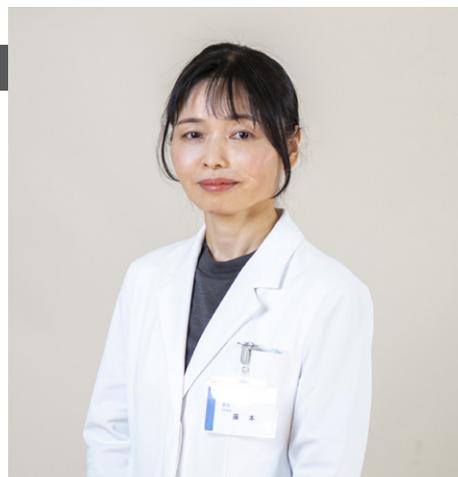
■重井医学研究所附属病院 地域連携センター長 藤本 さおり

このたび、地域連携センターのセンター長を拝命いたしました藤本さおりと申します。まずは、このような重要な役割をお任せいただきましたことを、大変光栄に感じております。責任の重さを実感するとともに、皆さまとより一層の連携を深めながら、患者さまにとってより良い医療支援の体制づくりに尽力してまいりたいと考えております。

地域連携センターは、地域の医療機関や福祉・介護施設と密接に連携し、患者さまが安心して治療・療養生活を送ることができるよう支援することを使命としています。入院前からの情報共有や調整を通じたスムーズな受け入れ支援、さらに退院後の在宅医療や福祉サービスとの連携など、前方・後方支援の両面から切れ目のないサポートを提供しております。

また、院内の医療スタッフと緊密に連携し、患

者さまやご家族の思いに寄り添いながら、安心できる医療環境の整備にも努めてまいります。今後は、より地域に根ざした質の高い医療連携を実現するために、関係機関の皆さまと力を合わせ、課題の共有と解決に向けた取り組みを進めてまいります。今後とも、地域医療のさらなる充実に向けて、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



このたび、副血液浄化療法センター長を拝命いたしました田中圭です。

岡山に来て間もないころ、偶然ドクターイエローを目にするという貴重な体験をしました。そのときは「きっと良いことがあるに違いない」と、勝手に前向きな気持ちになったのを覚えています。

そして、気がつけばしげい病院での勤務も10年を迎えました。この間、多くの患者さんやスタッフとの出会いに恵まれ、日々の診療を通して学びを重ねてまいりました。腎臓内科・透析医療に携わる中で、特に印象的なのは、しげい病院ならではの“透析をしながらリハビリテーションができる”ということです。これは患者さんの生活の質

を高める上で非常に大きな意味を持っており、私自身もこの環境に大きな魅力を感じています。

血液浄化療法は、患者さんの命を支える根幹となる医療です。そしてその質を高めるためには、医師だけでなく、看護師、臨床工学技士、リハビリスタッフ、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種が一体となって支えるチーム医療が不可欠です。これからも皆さまと連携しながら、より安全で安心な医療を提供し、センターとしての機能をさらに高めていきたいと考えています。

私にこのような大役が務まるのかという不安もありますが、これまでの経験を活かし、謙虚な姿勢で努めてまいります。今後ともご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

幸町記念病院 事務長に就任して

幸町記念病院 事務長 栗原 江里

この度の人事異動で事務長を拝命し、責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は、1987年4月に幸町病院に医療秘書として入職しました。國米欣明初代院長が岡山市幸町において診療所を病院へ変換された年でした。その後、宮崎雅史前院長が承継された幸町記念病院では、主に受付と医事業務に従事しました。当院の行動規範である「笑顔・あいさつ・思いやり」の実践、正確かつ丁寧な仕事を心がけておりました。そして、昨年度より事務長代行として新たな業務を担うことになりました。不慣れで皆さまにご迷惑をおかけしましたが、田中信一郎院長をはじめ職員の皆さん、そして創和会の皆さまからの温かいご支援、ご指導のおかげでなんとか一年を

乗り切ることができました。心より感謝申し上げます。

今年度は創和会との合併が控えており、職員が職場環境の変化を受け入れ安心して働けるよう、日頃よりコミュニケーションを大切にすると共に、必要な情報発信に努めてまいります。また滞りなく合併を進めるために、微力ではありますが引き続き創和会との緊密な連携を図ってまいります。今後とも、職員一同で質の高い透析医療を目指し尽力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



新入職員研修を実施

～今年もフレッシュな新入職員をたくさん迎えました～

■しげい病院

医療支援部 係長補佐 比津 守弘

新入職員 23 名（新卒 19 名・中途採用職員 4 名）を迎え 4 月 1 日より 5 日間の日程で新入職員研修を行いました。

今回の研修は、病院の理念や接遇、感染対策、医療安全など、医療従事者として欠かせない基本を中心に構成しました。講義だけでなく、グループワークやロールプレイなども取り入れ、できるだけ実践に近い形で理解を深めてもらえるよう工夫しました。

印象的だったのは、皆さんが非常に真剣に取り組んでいたことです。わからないことがあれば積極的に質問し、同期同士で協力し合いながら課題に取り組む姿に、これからの成長への期待が高まりました。新入職員の多くは、まだ現場に出ることへの不安を抱えています。その不安を少しでも

和らげ、「自分はこの病院の一員なんだ」と感じてもらえるよう、研修の場づくりには特に気を配りました。安心して第一歩を踏み出してもらえるよう、今後も研修内容や進め方を見直し、より良いサポートができるよう努めていきたいと思えます。

新入職員の皆さんにとってこれからの日々は、学びの連続であり、戸惑いや不安もあるかもしれませんが、仲間と協力し、相談し合いながら、失敗を恐れず前に進んでください。

今後の予定では 3 か月リフレッシュ研修から新入職員振り返り研修まで 1 年を通じて開催し、研修形態にも幅を持たせるようにしています。この新入職員研修プログラムは毎年継続して行っているもので、横の繋がりをもてる機会をつくれるよう取り組んでまいります。



▲新入職員代表挨拶



▲車いす移乗



▲手洗いチェッカー

新入職員 36 名（新卒 24 名・中途採用職員 12 名）を迎え、4 月 1 日より 5 日間、新入職員研修を実施しました。

初日には、皆さんがリラックスして研修に参加できるように、毎年恒例の自己紹介・他者紹介を行いました。すっかり場が和んだところで、真鍋院長より病院の理念や基本方針についてのお話があり、チーム医療の重要性についても学びました。新入職員の皆さんだけでなく、私自身も改めて気持ちを引き締める機会となりました。

また、座学の時間には真剣な表情でメモを取る姿が多く見られ、皆さんのやる気や今後への意欲が強く感じられました。

昨年に引き続き、元 CA の長澤さおり先生による接遇研修も行いました。研修では「ホスピタリティマインド（相手の気持ちをプラスにするため

に働きかける心や行動）」をテーマに、好印象を与える挨拶や立ち居振る舞い、言葉づかいについて学びました。

今年度は中途採用者の人数が多く、これまでの社会人経験を活かして研修に臨まれている様子が印象的でした。緊張していると話される場面もありましたが、その中でも穏やかで落ち着いた雰囲気を感じられ、全体として和やかで前向きな研修になったように思います。また、研修の段取りをしている私に「手伝いましょうか」とさりげなく声をかけてくださる場面もあり、あたたかな気遣いに心から感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今後もリフレッシュ研修などを企画しております。人材育成推進室として、皆さんのお役に立てるよう取り組んでまいります。これから一緒に歩んでいきましょう。



▲入職式ことば



▲他己紹介



▲AED



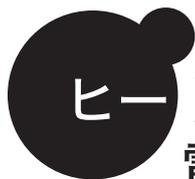
▲心肺蘇生



▲ストレッチャー移送



▲消火訓練



ヒートポンプ導入により 電気使用量を大幅削減！

～創和会 SDGs の実践～



しげい腎クリニック早島 副主任 武智 和希

▲ヒートポンプの熱交換装置

最近 SDGs という言葉をよく聞くようになりました。SDGs とは持続可能な開発目標という世界共通の目標で、未来を生きる子供たちが大人になったとき、より良い世界になっているための大きな目標です。

気候変動はあらゆる国に影響を与え、その影響は現在よりも将来においてさらに大きくなっていきます。そのような中、透析治療において当院で行っている SDGs への取り組みの一部をご紹介します。

皆さんもご存じの通り、透析治療は大量の水を使用して透析液を作成し、その透析液と血液の濃度差を利用して血液中の老廃物を除去する治療です。透析液を作成するにあたり逆浸透装置（以下 RO 装置）が必要となります。治療の過程で排出される透析液や RO 濃縮水は、患者さんの体温を維持するために加温されており、実は貴重な熱源になります。ヒートポンプを使用することにより、透析排液や RO 濃縮水を熱源とし、透析排液

や RO 濃縮水の温度を RO 装置に入る前の水道水へ移動させることが可能になります。それにより、従来設備（電気ヒーター等）の稼働率を削減し、大きな節電効果・CO₂ 削減を実現します。

しげい腎クリニック早島では、国が普及促進している ESCO 事業（省エネルギー改修事業）対象の「透析熱回収ヒートポンプシステム」を 2025 年 1 月より設置し、総工費約 2700 万円（うち補助金約 1000 万円）に対して、年間 120 万円の電気代削減予測です。15 年以内に投資回収の見込みとなっています。運用を開始後の 1 か月で電力使用量を 18.9%削減することができました。

冬場においては、特に水温が低くなるため電気ヒーター等の加温設備の稼働率が大幅に削減され、ヒートポンプ機能を最大限に発揮することができると考えられます。今後もしげい腎クリニック早島では SDGs に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

安全課の体制を強化



▲山崎安全課長と三木安全課長

これまでは安全課長は一人で、しげい病院と重井医学研究所附属病院を担当していました。

その勤務実態は、例えば午前はしげい病院（倉敷）で勤務し、午後からは重井医学研究所附属病院（岡山）に配転するなど、一病院での半日勤務が基本でした。

そうした安全課長の半日不在状態を少しでも解消するとともに、幸町記念病院の合併等組織の発展・拡充も相まって、今年度から新たに二人の安全課長が増強配置されました。

具体的には、倉敷方面（しげい病院、しげい腎クリニック早島及びはあもにい倉敷を担当）には「三木啓資（みきひろし）」安全課長、岡山方面（重井医学研究所附属病院及び幸町記念病院を担当）には「山崎博文（やまさきひろふみ）」安全課長が新たに就任しました。

両課長の勤務日（○印）は次のとおりです。

両課長（勤務日数）	曜日				
	月	火	水	木	金
三木課長（週4日勤務）	○		○	○	○
山崎課長（週3日勤務）	○	○			○

一方、従来の矢野安全課長は当面、全体的な立場から安全課業務の調整等に当たる予定です。

福利厚生制度のお知らせ

～大原芸術財団オフィシャルパートナー～

社会医療法人創和会は以前から地域貢献の一環として大原美術館後援会「大原芸術財団オフィシャルパートナー」に加入しています。今年度も企業名入りのオリジナル入館券（枚数：50枚 有効期限：4月～翌5月末）が届き、法人内施設に人数案分した枚数を配布させていただきました。各施設からは希望者に抽選で配布が行われました。

～岡山県博物館協議会～

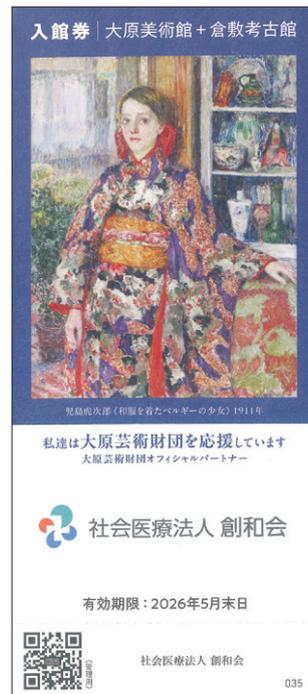
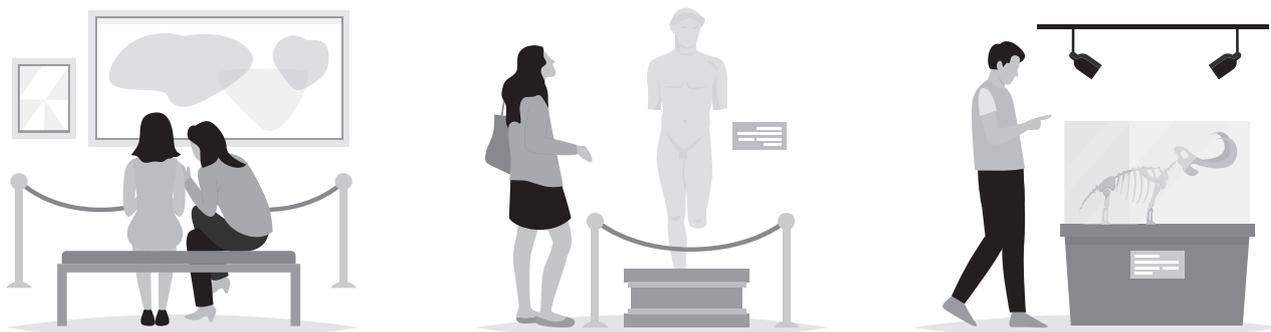
社会医療法人創和会は「岡山県博物館協議会」に加入しています。会員の特典として、岡山県内の多くの美術館・博物館の受付時に、会員証を提示すると無料で入館できます。

オリジナル入館券の抽選に外れた方も「岡山県博物館協議会加盟会員証」を利用すれば大原美術館に2名まで無料で入館できますので、こちらをご利用ください。下記の表の施設に無料で入館できます。利用時には会員証を貸出・返却していくシステムです。カードの貸出や対象施設については本部 植田・小田（PHS 609・内線 3394）までお問い合わせください。

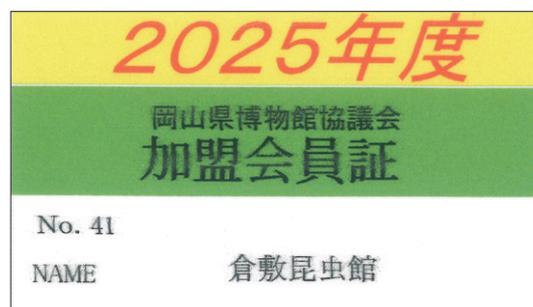
■ 岡山県博物館協議会参加施設（抜粋）

大原美術館	岡山城天守閣	倉敷市立自然史博物館
岡山県立美術館	池田動物園	岡山県立博物館
備前長船刀剣博物館	倉敷科学センター	笠岡市立カブトガニ博物館
倉敷市立美術館	日本郷土玩具館	川崎医科大学現代医学教育博物館
津山学びの鉄道館	招き猫美術館	一般財団法人林原美術館
夢二郷土美術館	備前市立備前焼ミュージアム	ベティスミスジーンズミュージアム

その他多数



▲オリジナル入館券



▲カード提示で表の施設に無料で入館可能

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「舞い飛ぶ朱鷺色を楽しむ」

日時：5月24日(土)
10:00～12:00
会場：重井薬用植物園

編集後記

●今年もはあもにい編集委員を務めることになりました。今回で7年目になります。そう考えると月日が経つのは早いもので、入社してもう8年目に突入しようとしています。この7年何か変わったことはあるかなと考えると、一番変わったことは何より体重の変化です。いつまでも若い気分でしたが、30代に突入した途端に、肌荒れや疲れの取れにくさといった体の変化を感じています。ひとまず先日の健康診断で再検査にならなかったことにほっとしています。今年はより一層健康に気を付けていきたいと思っています。本年度もよろしく願いいたします。(KM)

●勤務時間が変更され15分早く退勤できるようになったおかげで、なんだか帰り道が明るく感じられます。車も少なく、スムーズに進む道はストレスフリー♡少し早く帰るだけで、余裕を感じられるのが新鮮です。帰りのスーパーをいつもよりゆっくり見たり、ご飯前の子供との時間が増えたり、小さな余裕が大きな違いを生んでいることを実感しています。今はまだ仕事を切り上げるタイミングが難しく、今まで以上に効率よく仕事を進めることが目標です。たった15分も1か月にすれば数時間になります。今私が時間を使いたいことは、お金の勉強と旅行の計画！新たに得た時間を最大限に活用していきたいです。(YS)

2025年度 はあもにい編集委員紹介

しげい病院 地域連携室 岡田 拓也
栄養管理部 高木 彩乃

重井医学研究所附属病院 事務部 井上 有紀
事務部 永森 未路
事務部 伊達 仁一

しげい腎クリニック早島 田路 雄基

幸町記念病院 事務部 矢吹 静香
事務部 頭利 智子

重井医学研究所 分子遺伝部門 北村真優美

はあもにい倉敷 立川 真也

本部 人事部 松田 圭市
経営管理部 小田佐知子

今年度の編集委員メンバーです。取材に伺う際は、ご協力のほどよろしくお願いいたします。取り上げてほしい内容がありましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

訂正とお詫び

2025年4月号(1ページ)に掲載した記事において、役職に誤りがありました。ここに訂正するとともに、関係者の皆さまに深くお詫び申し上げます。

【誤】しげい病院 看護部 西尾 允希

【正】しげい病院 看護部 副主任 西尾 允希



社会医療法人 創和会グループ

WEB版はこちら。
バックナンバーもご覧ください。➔



- しげい病院
- 重井医学研究所附属病院
- しげい腎クリニック早島
- 医療法人 三祥会 幸町記念病院

- 倉敷しげい訪問看護ステーション
- 倉敷しげい居宅介護支援事業所
- 岡山しげい訪問看護ステーション
- 岡山しげい居宅介護支援事業所

- 重井医学研究所
- 健康増進施設 はあもにい倉敷
- 重井薬用植物園
- 倉敷昆虫館